

(2019年12月)

ハイチ共和国・政治・経済・社会情勢月報

<要点>

【政治】

- 内政：新政府発足及び暫定政権樹立に向けた動向（3日～）
- 外交：ヘイル米国務次官のハイチ訪問（6日）
- 外交：グリーンUSAID長官のハイチ訪問（12日）
- 外交：台湾による食糧援助（16日）
- 外交：米州人権裁判所代表団のハイチ訪問（17日）

【経済】

- 8月インフレ率，前年同月比19.5%

1 政治

(1) 内政：新政府発足及び暫定政権樹立に向けた動向

- 3日 暫定政権樹立の合意（マリオット合意）の特別委員会は，治安上の観点から名前を伏せつつも，暫定大統領に任命する破棄院判事の人選が決まったことを公表。
- 5日 与党PHTK党を筆頭とする各界代表者等は「合意に参加した関係者が信頼する人物」を新首相とする新政府発足の合意（キナム合意）に至った。
- 8日 モイーズ大統領は，メディアのインタビューに対して，年内に政府を発足する旨述べた。
- 15日 モイーズ大統領は，マリオット合意委員会等に対して書簡を発出し，大統領府で行われる年内合意に向けた会合への出席を求めた。
- 16日 モイーズ大統領は，マリオット合意派，キナム合意派，急進派等の政治指導者と個別に会談。一方，「暫定政権樹立に向けた委員会（通称：パスレル）」の広報官は，同会談で「（合意）文書に関する交渉，議論，対話はなかった」と述べた。
- 17日 ラ・ライム国連SRSG，デュプイ米州機構代表及びバチカン大使は，各派政治指導者や各界代表者を招いて政治合意に向けた会合を開催。
- 18日 同会合2日目，マリオット合意派及びパスレルは同会合を欠席し離脱。会合の世話人を務めたランベール元上院議長やジャンバティストRDNP代表等は共同声明を発出し，同会合が危機を解決する建設的な一歩になった旨を述べた。
- 同日 マリオット合意派に属する「第三の道運動（MTV）」を主導するレジナルド・ブーロス氏はMTV党設立記念会合をホテル・ロイヤルオアシスで開催。
- 20日 モイーズ大統領はマリオット合意派等の各派政治指導者に対して書簡を発出し，政治合意に向けた会合を呼びかけたものの，急進派は出席を拒否し，引き続きモイーズ大統領の即時辞任を求めた。

(2) 外交：ヘイル米国務次官のハイチ訪問

- 6 日 ヘイル（David HALE）米国務次官（政務担当）はハイチを訪問し、野党指導者等と会談し、平和的な対話による新政府発足を再び促した。

（３）外交：グリーンUSAID長官のハイチ訪問

- 1 2 日 グリーン（Mark GREEN）USAID長官は、1 2 日から1 4 日までハイチに訪れ、主要な政治指導者等と会談し、政治対話を促した。また、USAID が資金提供するハイチ北部のプロジェクトに関連する民間及び宗教関係者の代表者とも会談した。

（４）外交：台湾による食糧援助

- 1 6 日 当地台湾大使館は、ハイチの食糧危機に応えるため、2 万2 0 0 トンの米を寄付するとの声明を發した。1 万3, 0 0 0 トンは経済社会支援基金（FAES）に寄付され、7, 2 0 0 トンは NGO 団体（Food For the Poor Haiti）に寄付される。

（５）外交：米州人権裁判所代表団のハイチ訪問

- 1 7 日 米州人権裁判所（IACHR）代表団は、1 7 日から2 1 日までハイチを往訪し、モイーズ大統領と会談した。また、当地外交団コアグループ等と意見交換を行った。